

1年生活科 実践報告



テーマ：きせつとなかよし

ねらい

- 身近な自然を観察したり遊んだりする活動を通して、季節の変化に気付くとともに、自然の物から生まれる遊びを楽しんだり、工夫したりすることができる。
- 幼稚園児との関わりをもち、みんなでできる遊びを考え、一緒に楽しく遊ぶことができる。

実践内容

1 学期

2 学期

3 学期

春を見つけよう

秋を見つけよう
こども園の子を楽しませよう

冬を見つけよう

見つけたもので、作れるものや遊べるものを考え、作りました。

単元の大まかな流れ

秋を見つけよう

- ・あきはどんなきせつかな
- ・あきの校ていに出てみよう
- ・もっとあきをさがしにいこう

知る・気づく・比べる
観察カード



見つけた秋で遊ぼう

だれのために？
自分→近くの友だち
→次の1年生

つくってみたいな・
できたらいいなを考える



作ってみる・自分で遊ぶ

相手意識



友だちに遊んでもらう



次の1年生のために

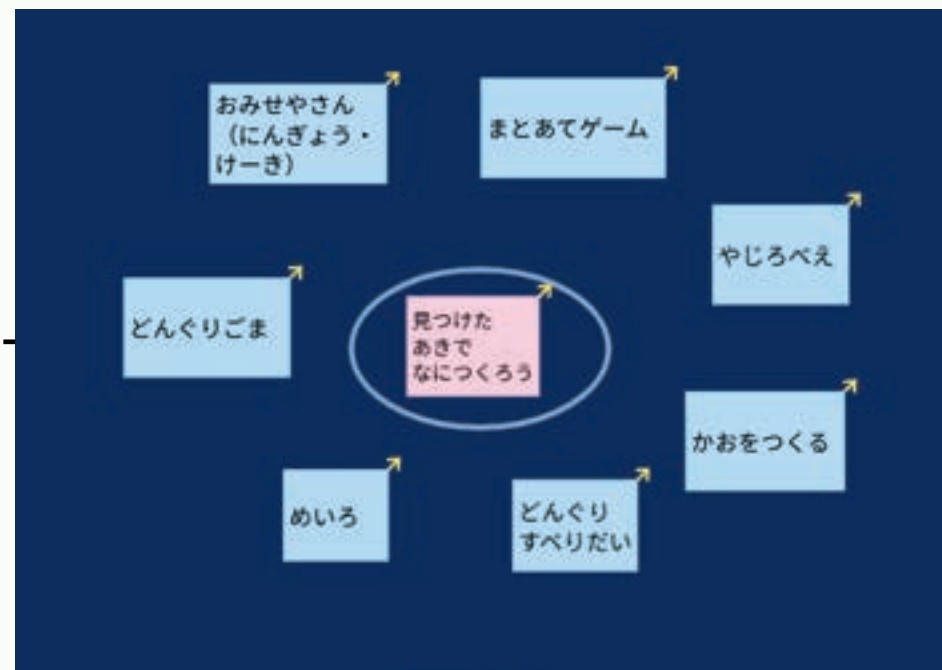
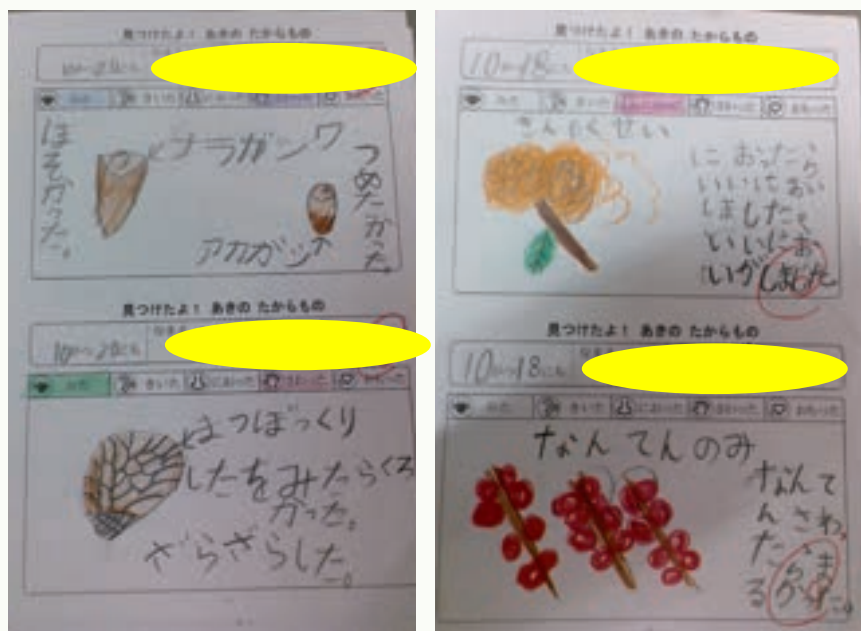


交流会

試行錯誤



見つけたものから何ができそうかな



ワークシートや教科書をもとに、作りたいものの意見を出し合う

製作活動～友達と遊ぶ



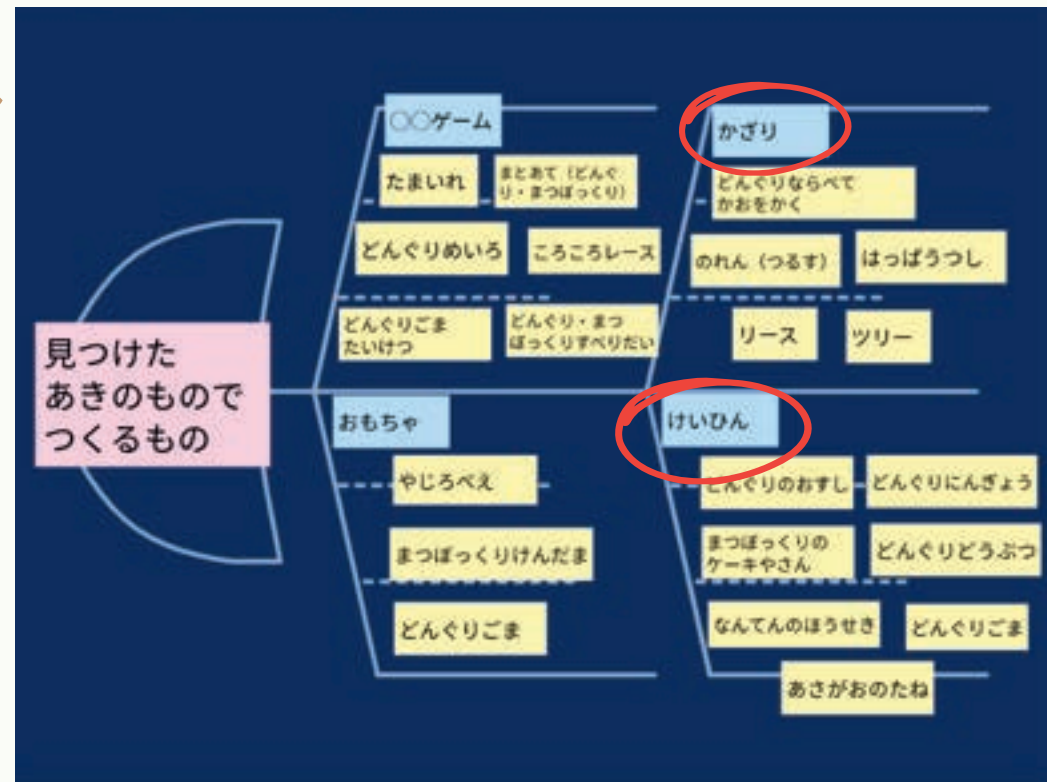
製作は6グループに分かれて活動
作って遊んで足して壊して・・・
楽しむための試行錯誤

- 遊びは相手意識をもって接することができた。
- ・この日に交流会で幼稚園の子と遊ぶことを伝え、秋のもので一緒に遊びたい思いを共有した。
- ・その上での改善点も話し合った。

失敗の経験



考えや思いを再考・整理 ～こども園の子を迎えるにあたって～



- ◆こども園の子にどうなってほしい？
- 自分たちの理想のゴール像を共通理解する。

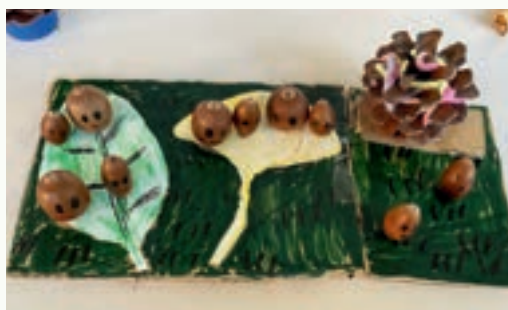
そのために自分たちは何をしたらよいか意見を出し合い、随時確認できるようにした。

- ◆作るものをもっとよくしたい
- 以前はほとんどなかった飾りなどの教室掲示、プレゼントという意見が出た。
- ・何かもらって喜んでほしい。
- ・小学校は楽しいところと感じてほしい。
- という思いを理由にしていた。

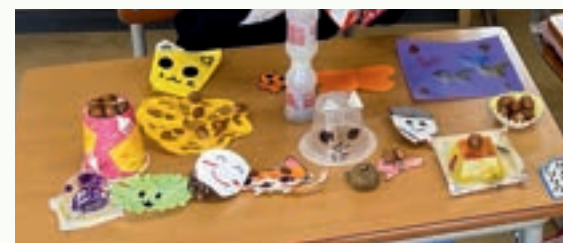
再考して作ったもの



ツリーとリース



葉っぱ写し、人形



のれん、景品類

他に、見えるものでは、看板の作り直し
見えないこととしては、役割分担、動き方、声などのアップデートがある。

成果と課題

成果

- ・ 友だちが見つめてきた秋のものに刺激を受け、身の回りの秋をさらに見つけようという意欲が高まった。
- ・ 「幼稚園の友達に楽しんでもらいたい」という相手意識をもちながら、おもちゃ作りができた。
- ・ 思いと必然性をもたせることで、主体的に考えたり発言する様子が見られた。

課題

- ・ 校庭の秋のもの(どんぐり・まつぼっくり等)が少なく、家からの持ち寄る物に頼る面が大きかった。
校外に秋みつけに行く適当な場所も探る必要がある。
- ・ 交流会後の振り返りを口頭だけのものにしてしまったので、なにか残るもので振り返りができれば、質の高いものになったと感じる。
- ・ 「作って遊ぶ」の方に授業時数を大幅に取ったので、生活の時間が圧迫した。
→ 試行錯誤の時間の期限をしっかりと設けて、予め子どもに伝えるべきであった。